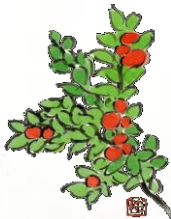




技術はよく
場づくりも大事



叱り方のコツ⑧ 叱り方の基本は、1対1の個別指導!

- 叱るとは、生徒の言動に容認できないものを感じ、それを矯正させようと直接生徒に働きかけるもの。
- 働きかけを通して、教師の気持ちがありのままに受け取られ、同時に生徒が自分の気持ちを正直に出せることが大切。
原則として、生徒と教師が1対1の関係で話し合うことが好ましい。
- 複数の場合には、「赤信号、みんなで渡れば・・・」の感覚が生じ、当事者意識が薄れてしまう。
- ・一人の教師が、複数の生徒を叱る→「俺だけじゃない」「みんなも同じだ」と素直になれない。
- ・複数の教師が、一人の生徒を叱る→「虎の威を借りる」「同僚の手前」と居丈高になりがち。
- 指導の要諦は、「何を言ったかではなく、どう受け取られたか」であることを再認識しよう。

ケース会議をする場合、場作りを意識しています。暑い日は、冷たい飲み物。寒い日には、温かい飲み物。静かな音楽。心が明るくなる花。落ち着くグッズなどいろいろと取り組んでみました。わざわざ来ていただいて、感謝ですという気持ちと場作りを大切にしています。辛い仕事から来られる方もいます。生徒の課題より、本人の頑張りを聴く方が心地良いです。課題は、シンプルに課題として押さえるようにしています。黒板にケース会議の流れをスッキリさせ、時間を明記することで少しずつ見通しがもてるようになります。この時間は、このことについてトークするという焦点化することになります。以前は、トークそのものが見通しがあるようでない会議になっていることが多かったように思えます。

先生方との研修でケース会議の持ち方を実践しました。美瑛中の先生方は、本当に力のある支援教育を理解された方が多いので保護者アプローチに対して、私も毎日が学びの場になっています。地域支援コーディネーターの目良Tの存在も大きく、幼少の頃から保護者との連携とアプローチの実践があるので、いろいろな角度から助けていただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。

悩みには必ず期限がある。

[エピソード] 中学時代、家族とも友だちともうまくいかず、居場所がなかった私に保健室の先生がくれた言葉です。救われた気持ちになりました。この先生に憧れて、私は保健室の先生の免許を取りました。愛知県「わかめ」さん(25歳) 事柄を語り続けるとずっと脳に残り続ける。感情だけ論じていてもナチュラルコースで忘れられます。あの時、つらかったなあとか言っても、つらかった事柄を忘れてしまえば、その感情は見事忘れれます。そのように人間は創られています。事柄や経験という事柄をどこかに置いておくことができれば、幸せな気分になれることが多いです。

自分許してあげよう
他人も許さない
自己同意